

【編集後記】 二宮 治彦 (編集長・臨床医学系)

創刊号の編集を終えるに当たって、昨年11月、医療科学主専攻から On-Line Journal の形式での逐次刊行物の発行を提案し、今後しばらくの間編集委員を務めさせて頂くことになったものとして、このジャーナルの発刊に想いを巡らせた経緯を最初に記しておくことにしたい。

今から2年前、看護・医療科学類の設置に向けた新学類開設準備室の大きな仕事の1つは、意欲にあふれた優秀な学生を集めるための広報活動であった。これは学類が既にスタートした今後も続けなければならない仕事である。当時、私自身が既に個人でホームページを開設していた関係で私に新学類の公式ホームページを作成するようという指示(依頼といったソフトなものではなかった)があり、以降、今年3月までの約2年間、看護・医療科学類の公式ホームページを編成し管理・運営することとなった。この間、学類ホームページからは主に入試やカリキュラムに関する情報を発信してきており、学類は今春第2回生を迎えた。この2年間の Webmaster としての経験を振り返ってみると、実に多くの受験生(問い合わせだけで実際には受験しなかった方も含めて)がこのHP というチャンネルを通して本学類に関心を寄せて頂いた。問い合わせをして頂いた学生や保護者の方の背後にはより多くの受験生や関心を寄せてくれた閲覧者がいることであろう。改めて、受験情報に限らず、現代における情報収集の手段としてのインターネットの普及を実感している。

学類ホームページを管理・運営して感じたことは、「公式」という使命ゆえに、このチャンネルから提供できる情報はどうしても確実な情報に限られてしまい、結果、提供する情報は表面的にならざるを得ないということであった。これは不特定多数の訪問者(特に受験生)を対象とするメディアとしての宿命なのかもしれない。

昨春、いよいよ看護・医療科学類に第1回生が入学して新しいカリキュラムが動き始めた。クラス担任の先生方をはじめとした教員と学生諸君は「医療科学主専攻」の教育にどう取り組み、「医療科学」という学問を如何に創造し、学び取ろうとしているのか?といったことは、残念ながらこの1年間、学類ホームページから発信することはできなかった。ホームページで発信することでないとおっしゃる方もあるかもしれませんが、不幸にして1年生の講義を担当していない私には実感としてもなかった。「医療科学主専攻」は医療技術短期大学の「衛生技術学科」から多くのものを継承してスタートしているが、当然、新たなものを創造する必要性にも迫られている。この創造と継承の過程を記録するメディアを学生・教員

が共有することが充実した主専攻の成熟に資するのではないかと私は考えはじめた。

ところで、「医療科学」という主専攻の名前は同列に並ぶかもしれない他大学の学科・専攻(検査技術学専攻など)と比べると少し特異的だ。比較的にはイイ印象を与える、見方によってはよすぎるのかもしれない、ネーミングだと思う。。その実体を正確には反映していないのではないかとこの指摘があることも承知している。本主専攻にこの名前を与えた関係者はどのような思いをこの名前に込めたのであろうか。彼らの思いは、現教員に、また学生に、どう伝わっているのであろうか? 私たちに比べれば、「医学」「看護学」という隣人達はより確固たるアイデンティティーを持っているようにも見える。「医療科学」という少しイイ響きの名前を与えられながら、今ひとつ不確かな雰囲気漂うこの主専攻にアイデンティティーを与えるのは現教員であり、何より新たな夢と希望を持ち全国から集った学生諸君であるはずだ。教員と学生が「医療科学」の創造に向けて真摯に向かい合う場として、教室という場所以外にツールが必要ではないかと私は考えた。教員同士で話をしていると、個々の先生方の「医療科学」の教育にける思いは、その方向性は少しずつ違っているがそれぞれに熱い。彼らの思いは教室で余談として学生に向かって話されたり、少数の学生に個別に話されたりすることもあるかもしれないが、もっと大きな声で話して欲しくなった。この筑波の地に「医療科学」という名前のもとに集ったもの同士のフォーラムを形成したいと思っている。もちろん、日々の勉学を刺激し、かつ学生諸君が個々の未来を展望する助けにもなるような場でもありたいと思っている。初代の編集者としては、このジャーナルを「医療科学」がそのアイデンティティーを確立するための核となるツールと考えている。関係各位のご支援を心からお願いしたい。

学生諸君は卒業時には「卒業研究」を論文として残して学類を巣立っていくはずである。それを後々まで形に残すジャーナルがあったほうがいい、とも思った。しかし、これはあと2年以上先の話だが・・・、このジャーナルはその受け皿となってくれるだろう。

編集小生は、昭和56年(1981年)に医学専門学群(現医学類)をその第2回生として卒業した。筑波を卒業して筑波で職を得ているので同窓生は近隣にあふれている。しかし、卒業後全国に散って活躍している同級生も多くいる。年2回程度発行される医学同窓会誌(桐医会会報)は全国で活躍する卒業生にとっては出身大学や同窓生の鼓動を知る大事な情報源となっている。今

後は、ホームページなどもその情報源になることであろう。今はフレッシュマンである本専攻の1・2回生もやがて巣立って全国で活躍する日が来る。そのとき、このジャーナルが存続して、できれば卒業生の活躍も話題とできるような日が来ることを願っている。

このような私の思いつきを医療科学専攻の先生方にお話したところ賛同と協力が得られ、今日の創刊を迎えることができた。しかし、ジャーナルの発刊は持続が難しい。おもに寄稿するのは限られた数の先生方自身なのだから。現在の先生方の意欲と協力が継続されることを切に期待している。こういう企てを始めるには医療科学専攻のサイズはこぢんまりして適しているが継続するにはかなりの努力も必要となりそうだ。編集者自身のマンネリが最大の敵かもしれない、ご批判をいただければありがたい。

創刊号だからといってあまり張り切りすぎないようにしよう決めていた。もとより少数のスタッフなので息切れしないようにしたいと思っている。時事性のある情報提供をしたいので、年間3号以上の発刊を目指している。

創刊号では、1)今年度から医療科学専攻が新たに開設する“総合科目”を主幹される浦山教授に開講の意図と計画を概説していただいた。今年度、医療科学専攻に限らず多くの学生が履修されることを期待しています。1年間続く科目なので追ってご報告いただくことになると思う。2)今年度から看護・医療科学類でも“公開講座”を開設することになったが、この教養講座の開設責任者である坂庭教授には講座の概要を述べて頂いた。医療科学専攻が地域社会に向かって果たすべき役割とは何かを今後も考え続けていきたい。3)このジャーナルが On-Line Journal を主体として発刊されることが象徴するように、今後 e-Learning は筑波大学でも重要なテーマとなるでしょう。編集小生が医療技術短期大学の教育を通して少しずつ進めてきた e-Learning への取り組みを紹介している。今後のさらなる発展に期待してほしい。以上、3編を【解説】として掲載した。

有波教授と太田教授には【総説】を寄稿いただいた。【総説】はこのジャーナルを読んでくれる学生諸君が学問としての「医療科学」を発見する手がかりにして欲しいと思って企画しているコンテンツである。多忙な先生方には少し無理をいって、今後も毎号1～2編の「総説」を寄稿して頂こうと思っている。今回の有波教授と太田教授の【総説】2編は遺伝子・ゲノムに興味を持つ多くの学生諸君に刺激的な内容であると思う。興味を持った学生諸君には是非、今度、有波教授や太田教授と“進化医学”や“ゲノム科学”の話をするきっかけにしてほしい。私たちが配偶者とHLA がかけ離れているのか近いのかを少し気にしながら、生命・人類の壮大な歴史をたどるロマン

に満ちたお話として読ませて頂きました。

【MedTec Forum】は学生諸君にとってより身近な話題を提供するコンテンツと考えている。クラス担任の先生や学類教員のなかで特定の役割を担っている先生方に学生諸君へ話すつもりで随時寄稿していただく予定である。今号では、1回生のクラス担任の一人である浦山教授と2回生のクラス担任になったばかりの長田教授に寄稿いただいた。長田教授には新入生オリエンテーションのスナップをジャーナル・カバーとしてお寄せ頂きました。【MedTec Gallery】には2回生オリエンテーションの筑波山登山のスナップほかを掲載しました。

次号からは、【解説】のカテゴリーでは、学生諸君が関心を持っているであろういくつかの資格についても順次解説して頂く予定にしています。乞う！ご期待。

創刊号にはありませんでしたが、【編集者への手紙】というカテゴリーも予定しています。今号の記事に関連して、また「医療科学専攻」についての多面的な提言など、【編集者への手紙】として受け付けます。On-Line Journal の Web サイトから投稿ください。医療科学専攻の学生諸君からの e-手紙を歓迎します。

創刊号をご覧頂いてお気づきのことと思いますが、教員の研究論文(「原著」といいます)は原則として掲載しないジャーナルです。あくまで医療科学専攻の学類学生教育(学士課程)にこだわった編集・発行を当面行って参ります。

この On-Line ジャーナルは学類のホームページを通じて公開しています。次号発刊の1ヶ月前には目次を Preview としてお知らせしますので、時々、HP もご覧ください。在学生に密着したジャーナルを目指します。また、広く一般の閲覧訪問者にも筑波大学の「医療科学専攻」を知って頂けるメディアでありたいと思っています。

このジャーナルを通じた学生と教員との活発な情報交換が「医療科学」の創造と継承に寄与することを期待しています。

筑波医療科学 第1巻 第1号	
編集	筑波医療科学 編集委員会 二宮治彦 有波忠雄
発行所	筑波大学 医学専門学群 看護・医療科学類 医療科学専攻 〒305-8575 茨城県つくば市天王台1-1-1
発行日	2004年 4月25日